

サステナビリティビジョンとマテリアリティ

ツムラグループにおける「サステナビリティ経営」とは、「サステナビリティビジョン」の体現に他なりません。

自然の恵みである生薬を活かす事業を進化させ、未来へつなげていく私たちだからこそ、自然環境の変化や危機に最も敏感な企業でなければなりません。そして、自然の恵みを最大限に活かし、人々の健康と医療に貢献し続けること——サステナビリティビジョン「自然と生きる力を、未来へ。」にはその想いが込められています。漢方バリューチェーンを通じて、持続可能な人間・社会・地球環境の実現を目指します。生薬はもとより水・空気に至るまですべてを自然に返す、当社グループならではの循環型社会に向けて取り組んでいきます。

パーパス「一人ひとりの、生きるに、活きる。」のもと、経営理念「自然と健康を科学する」を掲げる当社グループのサステナビリティビジョンは、長期経営ビジョン「TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031」を通じて具体的な活動に落とし込まれています。

マテリアリティの策定プロセス

当社グループは、事業活動を通じて地球規模の課題解決に貢献し、企業価値の向上を実現するために、2023年9月にパーパスを起点としたマテリアリティ（重要課題）を特定し直しました。これまでのボトムアップ型の策定プロセスから、CEOのコミットメントに基づくトップダウン型に変更することで、社会価値・経済価値の創出に向けたストーリーを社内外にわかりやすく伝えることを目的としています。

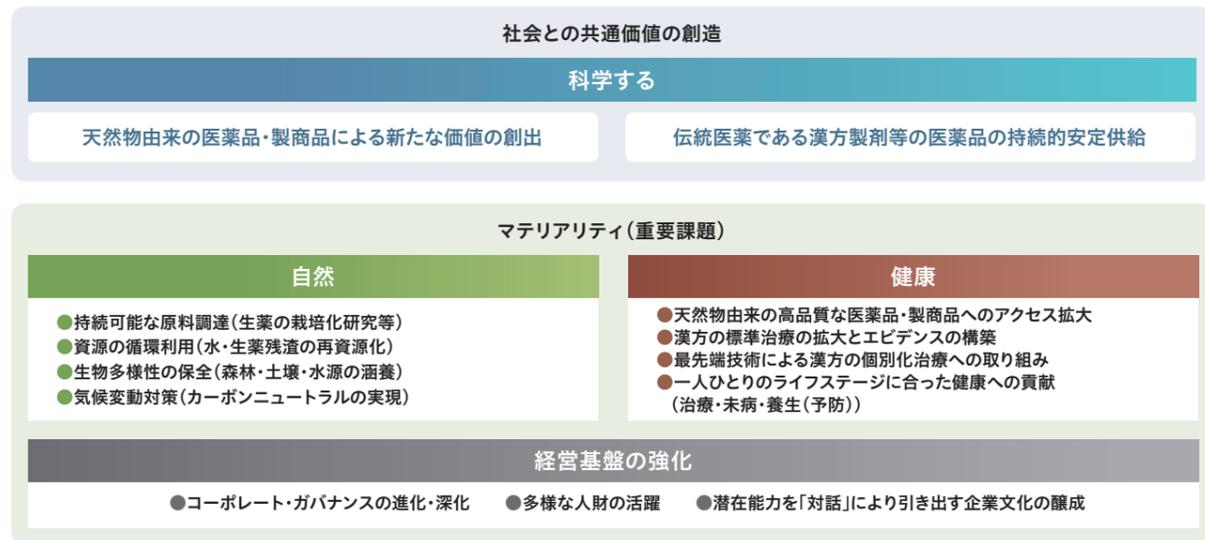
- 1 パーパスを起点にツムラグループのCSVにおける3つのレバー\*と長期経営ビジョンのつながりを整理
- 2 パーパスと経営理念から、ツムラグループが目指すべき「社会との共通価値の創造」を整理
- 3 ①と②で整理した要素を、サステナビリティビジョンの方向性と時間軸でマテリアリティ（重要課題）として特定

\*経営学者マイケル・ポーターが提唱するCSV(Creating Shared Value:共通価値の創造)を実現する3つの方法(レバー)のこと(①次世代製品・サービス創造、②バリューチェーン全体の生産性改善、③地域生態系の構築)

サステナビリティビジョン —— 自然と生きる力を、未来へ。

ツムラグループのマテリアリティ

ツムラグループのマテリアリティ（重要課題）は、パーパス「一人ひとりの、生きるに、活きる。」、経営理念「自然と健康を科学する」の体現に向けた事業への取り組みそのものを指します。当社グループの事業から創出される「自然」と「健康」に関わるすべての価値は、社会との共通価値の創造につながります。



サステナビリティ推進体制

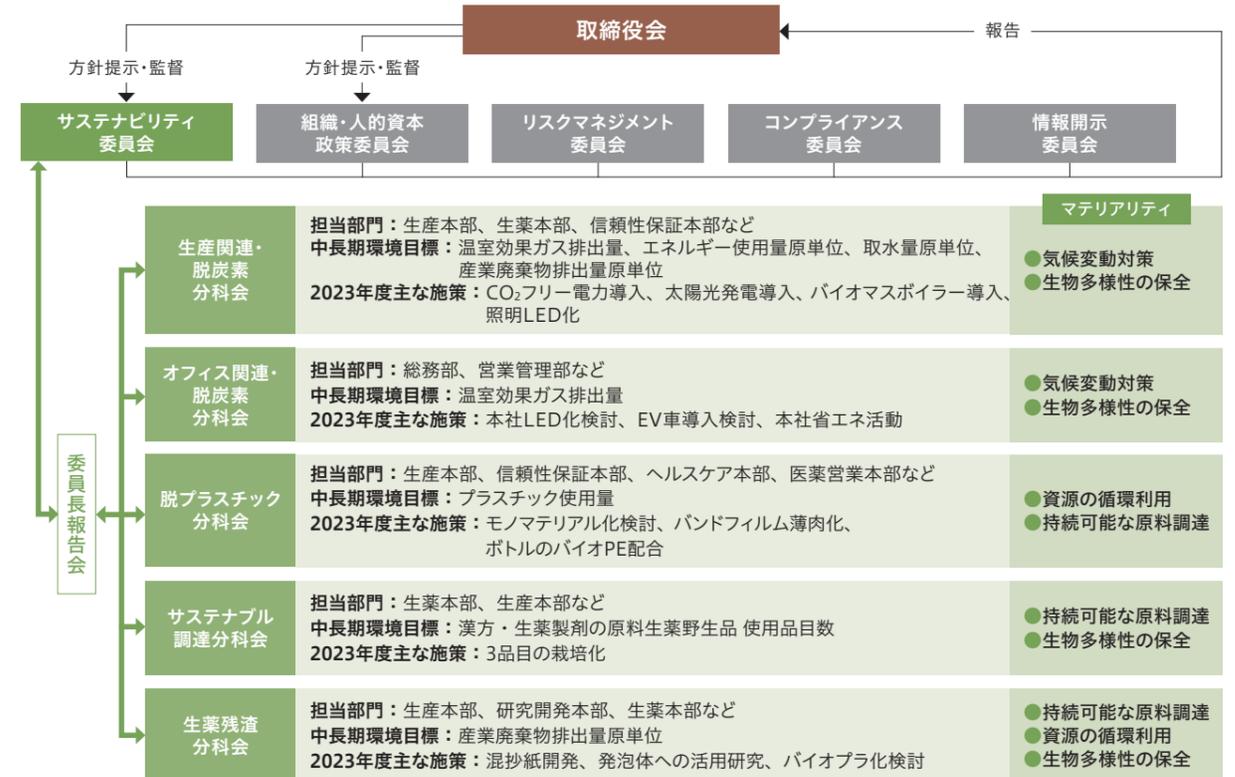
気候変動等の地球環境問題への配慮、人権の尊重等、サステナビリティに関する課題への対応は、重要な経営課題であると認識しています。取締役会直下のサステナビリティ委員会では、このような課題を具体的な戦略に反映すべく、全体の方向性や活動等を検討、モニタリングを行うとともに、委員会下に5つの分科会を設置し、中長期環境目標等に基づいた各本部の知見や経験、研究成果を部門横断的に検討しています。また、審議の活性化に向けて、各分科会の成果を委員長(杉井Co-COO)、副委員長(半田CFO)に定期的に報告する機会を設けるなど、サステナビリティ活動の実効性を高めています。社会環境の変化や時代の要請を踏まえて柔軟に対応することで、実効的なサステナビリティ活動を追求・推進していきます。

なお、サステナビリティ委員会は、2023年度は4回開催し、TCFD・TNFDの開示案やLTI-IIにも関わる中長期環境目標進捗などの重要な案件を審議し、取締役会への報告を実施しています。また、気候変動関連のリスクに関しては、サステナビリティ委員会とリスクマネジメント委員会が情報を共有しながら、評価・管理しています。

このサステナビリティ委員会の審議活性化のため、各分科会の取り組みの進捗報告とそれに対する経営指示が迅速に行われる体制構築をすべく、2023年9月に「委員長報告会」を設置し、2023年度は3回実施しました。

サステナビリティ委員会の構成

- 委員長:** サステナビリティ推進室担当執行役員 (Co-COO)
- 参加者:** CEOを除く全執行役員、関連部門長(経営企画室、コーポレート・コミュニケーション室、経理部、中国統括室、生薬本部、マーケティング本部)、オブザーバー(取締役常勤監査等委員、工場長)
- 2023年度開催回数:** 4回
- 2023年度の主な議題:**
- ・ TCFD開示更新案の審議・承認
  - ・ 中長期環境目標の進捗報告
  - ・ マテリアリティ更新に関わる議論のほか、TNFDはじめ各種イニシアチブへの賛同報告やCDPの結果報告、地域貢献活動の報告など



## マテリアリティと経営戦略KGI/KPI

マテリアリティ		第1期中期経営計画の戦略課題	指標(各組織のKGI/KPI)	2022年度実績	2023年度実績	2024年度目標
自然	持続可能な原料調達(生薬の栽培化研究等)	①医師一人ひとりにあった漢方ソリューションの提供による漢方市場の継続的拡大	国内事業 売上高	124,698百万円	132,099百万円	売上高CAGR5% (2022~2024年度)
	資源の循環利用(水・生薬残渣の再資源化)		医療用漢方製剤10処方以上を処方する医師の比率	32%	39%	50%以上
	生物多様性の保全(森林・土壌・水源の涵養)		4コマ以上の漢方医学教育を実施している大学数	78大学	78大学	82大学
	気候変動対策(カーボンニュートラルの実現)		メディカルサイトのユーザー数	非開示	非開示	非開示
健康	天然物由来の高品質な医薬品・製商品へのアクセス拡大		②KAMPOmicsによる漢方のエビデンス構築と未病の科学化の推進	ディテールインパクト件数	477万件	680万件
	漢方の標準治療の拡大とエビデンスの構築	漢方製剤の診療ガイドライン収載数(タイプB以上)	99件	102件	130件	
	最先端技術による漢方の個別化治療への取り組み	米国TU-100開発進捗	後期第II相臨床試験実施中	後期第II相臨床試験患者登録完了	—	
	一人ひとりのライフステージに合った健康への貢献(治療・未病・養生(予防))	③中国における生薬・飲片の売上拡大と中成薬事業への参入	中国事業 売上高	153億円	187億円	売上高CAGR30% (2022~2024年度)
	経営基盤の強化	コーポレート・ガバナンスの進化・深化	④漢方バリューチェーン改革に向けたIT基盤刷新と生薬選別、製造工程におけるAI・ロボット活用の推進	中成薬企業のM&A	複数社と交渉中	複数社と交渉中
多様な人財の活躍		⑤組織資本・人的資本による価値の創造と働きがい改革の推進	年間生産計画達成率	非開示	非開示	非開示
			工場における労働生産性(2021年度比)	102%	86%	120%
			理念浸透サーベイの平均点(5点満点)	4.06点	4.02点	4.00点以上を維持
健康経営優良法人認定取得の進捗率			優良法人認定取得に向けて準備中	健康経営優良法人2024に認定	優良法人認定を維持	
総合職における女性採用比率(単体)			42.2%	37.8%	50%	
潜在能力を「対話」により引き出す企業文化の醸成		サステナビリティビジョンの実現に向けた取り組み(中長期環境目標)	総合職におけるキャリア採用比率(単体)	67.5%	59.2%	40%
			エンゲージメントアンケート 総合満足度(5点満点)	3.58点	3.58点	3.90点
			「ツムラ調達方針」に基づいた生薬調達の実効性	「ツムラ調達方針」の運用開始	5団体において運用継続・準備中	生産団体への確認実施50%
野生生薬の使用品目数の削減(2020年度比)*1			1品目栽培化	3品目栽培化	1品目以上削減	
プラスチックの使用量(2020年度比)*2	—		—	▲10%		
GHG排出量(2020年度比)*3	+12.9%		▲6.3%	▲3%		
エネルギー原単位(前年度比)*4	▲4.8%		▲9.5%	▲1%		
取水量原単位(2020年度比)*5	+6%		▲7%	▲10%		
産業廃棄物排出量原単位(2020年度比)*6	—		—	▲50%		

\*1 2020年度実績 34品目 \*2 2020年度実績 3,037t \*3 2020年度実績 96,487t \*4 2021年度実績 154GJ/t \*5 2020年度実績 113.01t/t \*6 2020年度実績 1.76t/t

## サステナビリティビジョンの体現に向けて

### 「自然と生きる力を、未来へ。」in高知

自然環境保護と地域振興・次世代育成を目的に、2008年より開始した協働の森づくり事業「土佐ツムラの森」の取り組みは、2024年度で17年目となりました。2024年9月には、地元の越知中学校での教育内容の充実のために、これまでの4者間(高知県、越知町、農事組合法人ヒューマンライフ土佐、ツムラ)の協定に、公益財団法人高知県牧野記念財団(牧野植物園)を交えた5者間協定を締結し、地域の自然・歴史・産業を学ぶ教育プログラムへと刷新しました。国内の主要生薬栽培地の一つである越知町においての生薬収穫体験に加え、2024年度から新たに牧野植物園の専門的なリソースを活かして牧野富太郎博士ゆかりの

横倉山でのフィールドワークを実施。その中で高知大学と地元企業とともに開発したタブレット端末の電子図鑑を活用し、教育のDX化を進めます。地域や自然を基盤とした総合的な学習から、持続的な社会の担い手である次世代の人材育成に貢献することを期待しています。

※協働の森づくり事業「土佐ツムラの森」の詳細はWebサイトをご参照ください  
<https://www.tsumura.co.jp/sustainability/society/local-residents/>



当社社員による越知中学校でのオリエンテーションの様子

## 資源の循環利用に関する取り組み

### 生薬残渣混抄紙開発(茶殻リサイクル技術とともに)

ツムラグループのマテリアリティ「資源の循環利用(水・生薬残渣の再資源化)」にもあるとおり、自然資本を事業に活かし、生薬はもとより、水・空気に至るまですべてを自然に返すという考えのもと、製造工程における水の再利用や、生薬残渣のアップサイクルを進めてきました。年間約30,000t排出される生薬残渣は、これまで堆肥化、火力発電所のバイオマス燃料化、一部有償にて100%リサイクルをしてきました。サステナビリティ委員会下の生薬残渣分科会では、2022年度から株式会社伊藤園との企業リレーションを開始。茶殻リサイクル技術で協働いただけることになり、生薬残渣の新たな利活用方法を検討開始しました。

生薬残渣は約80%の水分を含有しているため数日で腐敗してしまいます。含水した生薬残渣の保管試験や、製紙までのプロセスにおいてもさまざまな課題がありましたが、ツムラ漢方研究所、茨城工場を中心に社内関連部署との連携で解決し、生薬残渣混抄紙の開発に至りました。混抄紙は、当社の名刺・封筒などに商品化され、全社員を通じてサステナビリティ活動を推進していきます。

